



「旭化成グループ サステナビリティレポート2024」 第三者検証 意見書

2024年10月31日

旭化成株式会社
代表取締役社長 兼 社長執行役員 工藤 幸四郎 殿

一般社団法人 日本化学工業協会
レスポンシブル・ケア検証センター長

石井



■ 報告書検証の目的

本検証は、旭化成株式会社が作成した「旭化成グループサステナビリティレポート2024」(以後、報告書と略す)を対象として、下記の事項について、化学業界の専門家として意見を表明することを目的としています。

- 1) パフォーマンス指標(数値)の算出・集計方法の合理性及び数値の正確性について
- 2) 数値以外の記載情報の正確性について
- 3) 環境安全・品質保証活動及びサステナビリティ活動の内容について
- 4) 報告書の特徴について

■ 検証の手順

- ・本社において、各サイト(支社、工場等)から報告される数値の集計方法の合理性・正確性及び数値以外の記載情報の正確性について調査しました。本社での調査は、会議室とWebを併用して、報告書の内容について各業務責任者及び報告書作成責任者に質問すること並びに資料の提示・説明を受けることにより行いました。
- ・守山地区の検証は、現地にて、本社に報告する数値の算出方法の合理性、数値の正確性及び数値以外の記載情報の正確性を調査しました。調査は、各業務責任者に質問すること、資料の提示・説明を受けること並びに現場を確認することにより行いました。
- ・数値及び記載情報の調査については、サンプリング手法を適用しました。

■ 意見

- 1) パフォーマンス指標(数値)の算出・集計方法の合理性及び数値の正確性について
 - ・数値の算出・集計方法は、本社及び守山地区において合理的に集計されています。またデータ収集範囲のグループ全社において「環境パフォーマンスデータ収集システム」が用いられており、数値は正確にかつ効率的に集計されています。
 - ・調査した範囲に於いて、パフォーマンスの数値は正確に算出・集計されています。
- 2) 数値以外の記載情報の正確性について
 - ・報告書に記載された情報は、正確であることを確認しました。原案段階では、表現の適切性あるいは文章の分かり易さについて若干指摘しましたが、現報告書ではこれらの指摘事項は修正されています。
- 3) 環境安全・品質保証及びサステナビリティ活動について
 - ・2050年に向け目指す姿として、「Care for People」「Care for Earth」を掲げ、サステナビリティを追求しています。「Care for Earth」では「カーボンニュートラル」でサステナブルな世界を実現し、「Care for People」では「ニューノーマル」で生き生きした暮らしを実現することを目指しています。それぞれに向けた具体的な活動を明示し、推進していることを高く評価します。
 - ・「マテリアル」「住宅」「ヘルスケア」の3領域で多岐にわたる事業を展開し、目標実現には意欲的な人財、高度な専門性を有する人財(高度専門職制度)、デジタル人財が必要です。そのための調査、教育を計画的に実施していることを評価します。
 - ・守山地区では、電池・電子機器の材料、繊維製品の材料の生産工場、開発や技術センターが併存した中、環境安全活動を展開しています。特に「守山地区基本安全行動細則」を作成し行動災害防止を図るとともに、本年度から作業等の確認、良い行動を褒めることを主眼とした「きづき隊」活動を始めています。これらの活動を高く評価するとともに、その成果を期待しています。また、サイトレポート「サステナビリティレポート2024」を発行し、従業員、地域住民、関係行政機関等の地域社会とコミュニケーションに努めている点を評価します。
 - ・重篤労働災害の撲滅を図るため、「旭化成ライフセービング・アクション(LSA)」として4つの禁止行動を制定し、継続して徹底を図るとともに、安全意識調査を行い課題の抽出と改善、「安全文化」の醸成に取り組んでいます。守山地区でもLSA掲示等が確認でき、この活動が進展していることを確認しました。
- 4) 報告書の特徴について
 - ・2050年のカーボンニュートラルを見据え、2030年目標「2013年度比30%以上の温室効果ガス排出量削減」の達成に向けて2023年実績も順調に進捗しており、その後のカーボンニュートラルにむけた具体的な取組みが示されています。
 - ・巻末に「ESGデータ」として、経年変化を含め、組織の活動の実態をまとめて表示し、分かり易さに配慮しています。